



2023 ANNUAL REPORT

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

大阪府高槻市大学町 2-7

Tel : 072-683-1221

e-mail : allergy_center@ompu.ac.jp

https://hospital.ompu.ac.jp/departments/allergic_disease_center/

(大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院)



アレルギーセンター Annual report

2023 年版作成にあたって

2021 年 11 月に設立された大阪医科薬科大学病院アレルギーセンターですが、その活動は 2 年を経過いたしました。2023 年の活動報告をさせていただく目的で Annual report を作成いたしましたのでご覧いただければ幸いです。

初年度は立ち上げに奔走し、2 年目は各研究会、市民公開講座、学会の主催、書籍の発刊、奨学寄附金獲得などと、活動を活性化することができました。3 年目にあたる本年は、さらに充実させた内容で情報発信を継続するとともに、附属病院内でアレルギーセンターが微力でも貢献しうることを探していきたいと考えています。

アレルギーセンター診療の活動指標は、地域医療への貢献を示すアウトカムとしてのアレルギー総合診にあると考えています。多臓器に渡る重症アレルギー疾患患者、または原因不明のアレルギー疾患患者をアレルギーセンターの総合診で診療しているわけですが、受診者数、診療内容においてまだまだ機能していない面があります。

地域医療を担ってくださっている先生方、そしてなにより地域の患者さんからの信頼を得て、安心してご紹介いただけるアレルギーセンターを目指していこうと考えています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



2024 年 2 月 28 日

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター長 寺田 哲也

目次

Pg. 2	センター運営委員一覧
Pg. 3	受診に関して
Pg. 5	研究助成 獲得状況
Pg. 7	CAI 資格取得者報告
Pg. 8	CAI 活動報告
Pg. 9	研修会開催報告
Pg. 13	学会主催報告
Pg. 14	研修会開催（2024 年）
Pg. 15	研究発表報告
Pg. 17	論文業績報告
Pg. 18	受賞報告
Pg. 19	国際認証報告（皮膚科）
Pg. 20	メディア活動報告
Pg. 21	書籍案内
Pg. 22	アレルギーセンターの成果

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター センター運営委員一覧



所属	職種	役職	氏名
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医師	センター長	寺田 哲也
皮膚科	医師	副センター長	福永 淳
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	医師	副センター長	中村 敬彦
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	医師		池田 宗一郎
眼科	医師		田尻 健介
皮膚科	医師		金田 一真
小児科	医師		田中 智子
小児科	医師		岡本 奈美
小児科	医師		大関 ゆか
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医師		菊岡 祐介
歯科口腔外科	歯科医師		藤原 久美子
65 病棟	看護師	小児看護専門看護師	水島 道代
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来	看護師	CAI 認定看護師	山口 睦美
77 病棟	看護師	CAI 認定看護師	生地 知美
皮膚科 外来	看護師	CAI 認定看護師	河村 佐知
中央検査部	臨床検査技師		田中 恵美子
栄養課	管理栄養士	CAI 認定栄養士	尾籠 賢
薬剤課	薬剤師		濱田 武
医事課	事務		近都 貴志
庶務課	事務		落合 英伸
患者サービス課	事務		古玉 秋生
広域医療連携センター	事務		中谷 尚文
医療連携室	事務		益倉 久実

2023 年 12 月 31 日現在

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

受診に関して



初診は、主たる症状に対応する各診療科のアレルギーを専門とする医師の外来へ受診いただきます。

① 重症のアレルギー疾患 ②多臓器にわたるアレルギー疾患 ③患者本人の受診希望 を満たし、

初診医がアレルギーセンター内で包括的な精査および加療が必要と判断した場合は「アレルギーセンター総合診」で対応を行います。総合診は水曜日午後に複数の診療科での対応が行える体制としております。

外来担当表

診療科名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科・ 呼吸器腫瘍内科				池田 宗一郎 (第3 午後)	中村 敬彦 (第1 午後)
小児科		大関 ゆか (午前・午後)			
眼科	田尻 健介 (午前)		田尻 健介 (午前)		
耳鼻咽喉科・頭頸部外科			寺田 哲也 菊岡 祐介 (午前)		
皮膚科					福永 淳 金田 一真 (午前)
アレルギー センター総合診			◎(午後) ※初診不可		



診療科名	アレルギーセンター総合診(水曜日午後) 担当医
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	中村 敬彦
皮膚科	福永 淳、金田 一真
小児科	大関 ゆか(※火曜日)
眼科	田尻 健介、向井 規子
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	寺田 哲也、菊岡 祐介
歯科口腔外科	藤原久美子

2022 年度

田辺三菱製薬

¥200,000-

「医薬品アレルギー情報の共有システム構築のためのアンメットニーズに関する調査」

医薬品アレルギーへの対応・対策として、「患者の薬剤アレルギー情報を把握し共有できるシステムの構築」が重要とされている。情報を一元化して医療機関同士で共有できるようになれば、薬剤アレルギーを有する患者への薬剤投与防止し、診察時に薬剤アレルギー情報の再聴取が不要となり医療従事者の業務過多の軽減をはかり、さらに医薬品を安全に使用できるようになるといった多数のメリットがある。医薬品アレルギーの情報共有システムの構築を目指し、現状で医療従事者、患者、薬局における医薬品アレルギーに関するアンメットニーズを調査する。

申請者:大関 ゆか

第一三共 奨学寄付プログラム

¥500,000-

「エクソソームを用いたスギ花粉症に対する免疫療法の可能性」

これまで、私たちは制御性T細胞やインターロイキン10(IL-10)を効率よく産生するTr1細胞の誘導がスギ花粉症に対する抗原特異的免疫療法の効果発現に重要であることを明らかにした。しかし、その抗原特異的免疫療法の治療効果は充分とは言えず、また効果予測のバイオマーカーも明確ではない。本研究では、細胞間情報伝達機構に深く関わっているエクソソームが、自然リンパ球2型(ILC2)を介する2型サイトカインの産生を抑制することを明らかにし、エクソソームにより、免疫療法の治療効果を上昇させることで臨床応用への展開を目指している。具体的には免疫療法の効果良好な患者の血液中、唾液中エクソソームを採取、精製し、ILC2から産生される2型サイトカインに及ぼすエクソソームの影響を検討する。また、エクソソーム由来の形質転換因子(mRNA, miRNA)の免疫抑制効果に及ぼす影響を明らかにできれば、治療効果の上昇や、治療期間の短縮が期待できる。

申請者:寺田 哲也

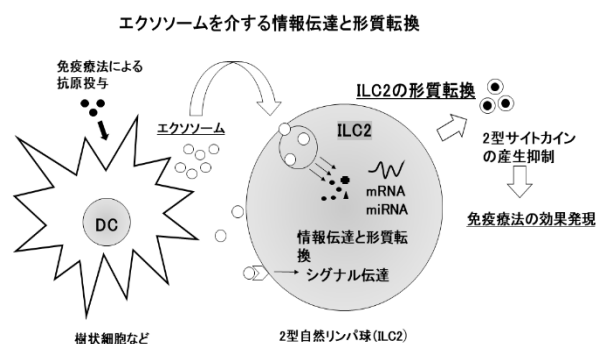


図2 抗原特異的免疫療法におけるエクソソームの役割

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

研究助成 獲得状況

2023 年度

大塚製薬

¥200,000-

「食物アレルギーの経口免疫療法(oral immunotherapy: OIT)における心身症医学的アプローチの検討」
OIT の継続の可否については、アレルギー食品の摂取に関して、患児および保護者が感じる時間的、身体的、心理的負担が関与すると思われる。OIT 中の患児および保護者の心理的負担を追求し、心身医学的にどのようなアプローチを行えば OIT を継続することができるのか、あるいは効果的に OIT を進めていけるのかを検討する。

申請者:大関 ゆか

大鵬製薬

¥200,000-

「刺激誘発型蕁麻疹の診断のための運動負荷試験検査方法の確立」

コリン性蕁麻疹、食物依存性運動誘発アナフィラキシーなど運動が症状誘発に関わる刺激誘発型蕁麻疹の確定診断のためには運動負荷試験を実施することが国内外のガイドラインなどで推奨されているが、実際の試験の手順や方法に関する検討は少ない。本アレルギーセンター では倫理審査を通し、刺激誘発型蕁麻疹患者においてトレッドミルによる Bruce 法に準じた負荷試験を実施し、運動負荷試験の標準化に向けた検討を行う。

申請者:福永 淳

協和キリン

¥300,000-

「アトピー性皮膚炎の治療方針の均てん化のための医療従事者への疾患教育アプローチの有効性の検証」

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー、喘息、アレルギー性鼻炎、好酸球性副鼻腔炎などの Type2 炎症性疾患を中心に、地域のアレルギー疾患患者をトータルマネジメントすることを目的として大阪医科薬科大学アレルギーセンターは活動を行っている。アレルギーセンターでは地域医療への貢献を第一の目標に医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、事務員が密接な協力関係を取りながら、複数のアレルギー疾患を同時に診察できる総合診のシステムを構築し、複数診療科横断的に患者を診察している。アレルギーセンターでは複数のアレルギー疾患を有する患者を総合診でフォローしているが、そのうちの多くの患者がアトピー性皮膚炎を有することが判明している。一方、本邦におけるアトピー性皮膚炎患者に関するアンケート研究においても、患者がアトピー性皮膚炎に関する医療従事者から説明に十分な満足は得られていないこと、治療法に対する満足度が低いことが判明している。

このような背景からアトピー性皮膚炎のマネジメントに関する啓蒙活動の重要性を痛感しており、本研究ではアトピー性皮膚炎治療の均てん化を図るために、アレルギーセンターという特性を生かしセンター活動に関わる医療従事者へのアトピー性皮膚炎という疾患に関する教育活動を行い、その教育的アプローチの方法の有効性、効率性を検討することを目的とし、アンケートなどを用いて教育効果の検証を行う。

申請者: 福永 淳

2023 年 12 月現在

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

CAI 資格取得者報告

アレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を有し、患者さんや家族への指導スキルを兼ね備えたコメディカルスタッフの認定制度である、CAI(アレルギー疾患療養指導士)資格の取得を当センターでは推進しております。2023年は、皮膚科外来の看護師1名が新規に資格を取得し、計6名が院内で活躍しております。

看護部

77病棟

生地 知美

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来

山口 睦美

皮膚科 外来

河村 佐和

栄養部

尾籠 賢

西田 豊美

薬剤部

居藤 亜弥

参考：一般社団法人 日本アレルギー疾患療養指導士認定機構



大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

CAI 活動報告

本年の CAI 活動に関して

- ・耳鼻咽喉科 アレルギー外来診療での患者指導(舌下免疫療法、抗体製剤初回導入患者指導など)
- ・抗体製剤自己注射初回導入時の指導に関して、指導料算定(170 点)を推進

・第 2 回 北摂総合アレルギー研究会にて講演(2023年3月11日)

- ・山口 睦美 「CAI としての関わり アンケート調査から見てきた患者ニーズ」
- ・居藤 亜弥 「薬剤師によるアレルギー情報の収集と共有について」

・エピペンに関する勉強会を開催

CAI エピペン勉強会(於:66 病棟カンファレンス室 2023 年 9 月 29 日)

参加者:医師(2 名)、看護師(6 名)、薬剤師(2 名)、管理栄養士(2名)の計12名

ヴィアトリス製薬サポートのもと、デモ機を用いた実技指導を含めた勉強会を開催いたしました。

多職種で開催することで、それぞれの職種の視点からの意見交換を行うことができました。

・第 10 回 日本アレルギー学会近畿地方部会にて講演(2023 年11月26日)

- ・メディカルパートナーセッション「患者指導の重要性と指導料について」

山口 睦美 「CAI 看護師として患者指導の実際と問題点について」

- ・一般演題 4 多職種連携

居藤 亜弥,他「薬剤師によるアレルギー情報の収集と共有」



研修会 開催報告（2022 年）

診療

診療科横断的



教育

医療者・一般の方・教育関係者

概要

当センターでは、多臓器/多領域にわたる疾患および重症例のアレルギー疾患に対して、診療科横断的検査および治療を集約し対応しております。また、市民の方・教育関係者および医療従事者を対象とした講習会も充実させております。2022 年は計 4 回の講習会を開催させていただきました。

研修会に関する報告(市民対象)

2022 年 8 月 6 日（Hybrid 開催:大阪医科薬科大学 看護学部講堂、zoom）

第 1 回 OMPU アレルギーセンター市民公開講座

「聞きたい、知りたい、食物アレルギーについて」

総参加者

約 100 名

研修会に関する報告(教育関係者対象)

2022 年 5 月 30 日（豊中市立第九中学校）

エピペン研修会

研修会に関する報告(医療従事者対象)

2022 年 3 月 5 日（大阪医科薬科大学 本部キャンパス 新講義実習棟 P101）

大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 開設記念講演会

総参加者

約 60 名

2022 年 11 月 24 日（Hybrid 開催:大阪医科薬科大学 本部キャンパス 新講義実習棟 P301、zoom）

第 1 回 北摂総合アレルギー研究会

総参加者

約 70 名

研修会 開催報告（2023 年）

（市民対象）

2023 年 8 月 5 日（Hybrid 開催：大阪医科薬科大学 看護学部講堂、zoom）

第 2 回 OMPU アレルギーセンター市民公開講座「スキンケアのウソと本当」

総参加者 約 120 名

2023 年 2 月 1 日～2023 年 2 月 28 日 YouTube オンライン配信

第2回大阪医科薬科大学薬学部 市民講座 演者：寺田 哲也

「アレルギーにやさしい街 たかつき」：お子さまからお年寄り、市民の皆さんにとって」

2023 年10月 5 日（高槻市生涯学習センター 2F 多目的ホール 主催：高槻市）

高槻市市民医学講座 演者：寺田 哲也

「アレルギーの基本知識とその対策：私たちの健康を守るために」

2023 年10月 5 日（Web 配信 主催：日本イーライリリー株式会社）

アトピー性皮膚炎オンライン市民公開講座 演者：福永 淳

「アトピー性皮膚炎の発症・悪化の原因と新しい治療選択肢」

2023 年 11 月 7 日（島本町ふれあいセンター3階 主催：島本町すこやか推進課）

島本町医学講座 演者：中村 敬彦「アレルギーと喘息の本当の関係」

（教育関係者対象）エピペン研修会

2023 年 4 月 20 日（西大和学園中学校高等学校(奈良県)）

2023 年 5 月 26 日（茨木市教育委員会）

（医療従事者対象）

2023 年 3 月 11 日（Hybrid 開催：大阪医科薬科大学 本部キャンパス 新講義実習棟 P301、zoom）

第2回 北摂総合アレルギー研究会

総参加者 約 80 名

2023 年 11 月 30 日（Hybrid 開催：大阪医科薬科大学 本部キャンパス 新講義実習棟 P301、zoom）

第3回 北摂総合アレルギー研究会

総参加者 約50名

第2回北摂総合アレルギー研究会

この度、「第2回北摂総合アレルギー研究会」を下記要領にて開催させて頂く運びとなりました。
ご多忙中のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

＜日時＞ 2023年3月11日(土) 15:20-17:00

＜形式＞ Hybrid開催（現地聴講+Web聴講）

＜会場＞ 高槻現代劇場 文化ホール 会議室（レセプションルーム）

〒569-0077大阪府高槻市野見町2-33

※裏面の「お申込み手順」をご参考に、事前のお申込みをお願いします。

開会挨拶 大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 河田 了 先生

一般講演 15:25～15:55

座長：大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 菊岡 祐介 先生

Lecture 1：『アレルギーセンターにおける中央検査部の役割について』

演者：大阪医科大学病院 中央検査部 田中 恵美子 検査技師

Lecture 2：『CAITとしての関わり アンケート調査から見てきた患者ニーズ』

演者：大阪医科大学病院 山口 睦美 看護師

Lecture 3：『薬剤師によるアレルギー情報の収集と共有について』

演者：大阪医科大学病院 薬剤部 居藤 亜弥 先生

特別講演 15:55～16:55 テーマ：多職種連携で取り組むアレルギー診療（耳鼻咽喉科領域講演対象）

座長：大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

准教授／アレルギーセンターセンター長 寺田 哲也 先生

『北海道のアレルギー診療を担う』

演者：北海道大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部外科

准教授／アレルギーセンターセンター長 中丸 裕爾 先生

『山梨大学附属病院アレルギーセンターの活動と現状』

演者：山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教授／アレルギーセンターセンター長 櫻井 大樹 先生

閉会挨拶 大阪医科大学病院 アレルギーセンターセンター長 寺田 哲也 先生

※特別講演（15:55～16:55）は耳鼻咽喉科領域講演として単位取得できます。【1単位】

※日本アレルギー学会専門医制度認定の会申請予定。



共催：大阪医科大学病院アレルギーセンター、サノフィ株式会社

大阪医科大学病院

アレルギーセンター 第2回 市民公開講座

2023年8月5日(土)

参加費
無料

希望者に
サンプルあり
(数量限定)

受付開始13:30 / 講演14:00～16:00

場所：大阪医科大学本部キャンパス

新講義実習棟 P101

ハイブリッド開催：会場（先着100名）・Web配信

● 医師による講演

「皮膚科医目線のスキンケアのウソと本当」

～アトピー性皮膚炎を中心に～

大阪医科大学 皮膚科 福永 淳

● 看護師による講演

「実践！夏のスキンケア」

むらた小児科 二階堂 稚重子

● 実演・実習（先着30名・事前申込み）

実際の塗り薬、石鹸、サンスクリーン剤を用いて

講師と一緒に体験していただきます

※内容は多少変更となることがございます



主催：大阪医科大学病院 アレルギーセンター

後援：（公財）日本アレルギー協会 関西支部

実演・実習・サンプル協力：株式会社資生堂

申込み切：2023年8月4日（金）15時

問い合わせ先：allergy_center@ompu.ac.jp

※参加方法の詳細は裏面をご覧ください

※電話でのお問い合わせはお控えください

『アレルギーにやさしい街 たかつき』： お子様からお年寄り、市民の皆さんにとって

講師：大阪医科大学病院 アレルギーセンター センター長

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医療

寺田 哲也 氏

配信期間：

2023年2月1日～2月28日

大阪医科大学HP 医学部市民講座ページにて録画映像を公開

「大阪医科大学 医学部市民講座」で検索してください。

URL: <https://www.ompu.ac.jp/lecture/yakugakushimin.html>

（複製予約不要）



主催：大阪医科大学

共催：大阪医科大学医学部市民講座

協賛：公益社団法人 日本アレルギー学会、一般社団法人 大阪アレルギー協会、一般社団法人 高槻市アレルギー協会、

一般社団法人 高槻市アレルギー協会、一般社団法人 高槻市アレルギー協会、一般社団法人 高槻市アレルギー協会、

協賛：入居市、高槻市、高槻市アレルギー協会、一般社団法人 大阪アレルギー協会、

協賛：入居市、高槻市、高槻市アレルギー協会、一般社団法人 大阪アレルギー協会、

共催：大阪医科大学病院 アレルギーセンター

共催：大阪医科大学病院 アレルギーセンター

〒569-0044 大阪府高槻市野見町4-2-1 TEL: 072-040-1100 (FAX) 072-040-1100

第3回北摂総合 アレルギー研究会

日時：2023年11月30日(木)

18:30～20:00

会場：大阪医科大学 P302教室

（ハイブリッド開催）

※現地参加、Web視聴ともに、事前の参加登録が必要で

裏面のお申込み手順をご参照ください。

開会挨拶：喜田 照代 先生（大阪医科大学 眼科学教室 教授）

基調講演

18:30～19:00

「アレルギー性結膜炎

眼科サイドからの視点」

座長：福永 淳 先生（大阪医科大学 皮膚科学教室 准教授
アレルギーセンター センター長）

演者：田尻 健介 先生（大阪医科大学 眼科学教室 講師）

ご挨拶 ～翌年の花粉飛散シミュレーションを踏まえて～

河田 了 先生（大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授）

特別講演

19:00～20:00

「花粉症治療 知っておきたいこと

-2023最新ガイドラインの改訂点と

花粉症治療の現状-」

座長：寺田 哲也 先生（大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 准教授
アレルギーセンター センター長）

演者：朝子 幹也 先生（関西医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療部長 教授）

開会挨拶：寺田 哲也 先生



※当研究会は、大阪府生涯学習単位

耳鼻咽喉科領域講演（1単位）

アレルギー学会専門医単位に申請予定です。

共催：大阪医科大学病院 アレルギーセンター

大阪医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

田辺三菱製薬株式会社



大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

研修会 開催報告（2023 年）

第 2 回大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター市民公開講座 開催報告

猛暑の中そして当日は高槻まつりが開催される中、現地 60 名、Web57 名と 117 人と非常に多くの市民の方にご参加いただきました。テーマとしては、スキンケアを取り上げ、前半パートでは 2 人の演者より、近年増加傾向にあるアレルギー疾患のうち主にアトピー性皮膚炎のスキンケアと夏の時期の一般の方を含めたスキンケアについて、講演いたしました。講演終了後は事前に受け付けていた多くの質問に対していくつか代表的な質問に関して、演者から回答させていただきました。また、後半パートでは実際の塗り薬の使い方、石鹸を用いた皮膚の洗浄方法、サンスクリーン剤を用いた日焼け止めの方法について、大阪医科薬科大学皮膚科のメンバーの指導のもと現地参加された市民の方々に実演・実習を行っていただきました。今回の講演会を通じて、スキンケアの正しい知識や対応を学び、日常の疑問を解消いただけたかと思います。「アレルギーに優しい街」というキャッチコピーの通り、今後もアレルギーの幅広い分野にわたって市民対象の公開講座を充実させていきたいと考えています。今後どうぞご期待ください。



第 2 回北摂総合アレルギー研究会 開催報告

長引くコロナ禍の影響や育児との両立も鑑み、ハイブリットで開催をし、総勢 79 名（現地 30 名、オンライン 49 名）の方々にご参加頂きました。一般演題として、大阪医科薬科大学病院 中央検査部、看護部、薬剤部よりアレルギーに関わる当院での関わりや、現在進めている研究報告を致しました。また、特別講演としまして、「多職種連携で取り組むアレルギー診療」をテーマに、北海道大学病院 アレルギーセンター長の中丸先生と山梨大学病院アレルギーセンター長の櫻井先生より、それぞれのアレルギーセンターでの活動や将来展望などを御講演頂きました。多職種が連携し包括的な対応が求められるアレルギー診療をおこなっていくうえで、とても興味深い内容でありました。地域の皆さまと共に学び共に成長していけるセンターとして、今後も定期的に研究会を開催していく予定です。地域のアレルギー診療を支えてくださる皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第3回北摂総合アレルギー研究会 開催報告

ハイブリッド開催とし、現地 25 名、web 聴講 35 名の方々にご参加頂きました。花粉症をテーマとして眼科、耳鼻科領域の講演を企画しました。基調講演は大阪医科薬科大学 眼科の田尻健介先生より「アレルギー性結膜炎 眼科サイドからの視点」というテーマで、眼科疾患の基本を含めてアレルギーに関わる詳細な情報をコンパクトにまとめていただきました。

特別講演は、関西医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の朝子幹也先生より「花粉症治療 知っておきたいこと-2023 年最新ガイドラインの改訂点と花粉症治療の現状-」というテーマで、現在改訂作業が進められている鼻アレルギー診療ガイドラインに基づいた花粉症の診断から治療に関するご講演をいただきました。2024 年のスギ花粉飛散数は前年の 0.8 倍、例年の 1.2 倍と予想されています。今回の講演会での学びを生かし地域医療に貢献したいと思います。



大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

第10回日本アレルギー学会近畿地方部会

主催報告



第10回
日本
アレルギー学会
近畿地方会

横断的診療体系の
構築を目指して

2023年 **11/26** (日)

会場 大阪国際会議場
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

会長 寺田 哲也
大阪医科薬科大学病院アレルギーセンター センター長
大阪医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授

事務局 大阪医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

運営事務局 株式会社コンベンションフィールド
〒101-0043 東京都千代田区神田富山町21 神田FKビル6階
TEL: 03-6381-1957 FAX: 03-6381-1958 E-mail: jsakinki10@conf.co.jp

研修会 開催予定（2024 年）

（2024 年）

市民対象

2024 年 8 月 3 日

第 2 回 OMPU アレルギーセンター市民公開講座

喘息治療薬の吸入手技の実演・実習なども含めた内容を計画しております

医療従事者対象

2024 年 3 月 2 日 （高槻城公園芸術文化劇場 大スタジオ）

第4回 北摂総合アレルギー研究会

「アレルギーをもつことどもの成長発達への支援」 演者：水島 道代 看護師

「保湿剤とステロイド外用剤の混合について」 演者：中川 博之 薬剤師

「小児アトピー性皮膚炎の最新治療」 演者：堀向 健太 先生

2024 年 11 月 （詳細未定）

第5回 北摂総合アレルギー研究会

蕁麻疹、血管性浮腫、アナフィラキシー診療の最前線に関する講演を計画しております

研究発表 報告 (2023 年)

概要

当センターでは、各診療科での研究発表に加えて、アレルギーセンターとしての研究発表も推進し、各学会や研究会でのアレルギーに関する研究成果報告を行っております。

第10回日本アレルギー学会 近畿地方会 2023年11月26日 (大阪国際会議場)

- ・中村 敬彦 アフタヌーンセミナー1「バイオ製剤が必要な重症喘息の診療」
「重症喘息で clinical remission を目指すために臨床医ができること」
- ・山口 睦美 メディカルパートナーセッション「患者指導の重要性と指導料について」
「CAI 看護師として患者指導の実際と問題点について」
- ・金田 一真,他「アリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の1例」
- ・菊岡 祐介,他「アレルギー疾患対応における、医師の役割とチーム医療」
- ・中村 敬彦,他「Benralizumab 導入後も残存する症状に対し Tezepelumab が有効であった重症喘息の一例」
- ・居藤 亜弥,他「薬剤師によるアレルギー情報の収集と共有」

第9回日本アレルギー学会 近畿地方会 2023年6月11日 (大阪国際交流センター)

- ・寺田 哲也 「Total Allergist 育成に繋がるアレルギー総合診システムの構築」

第9回総合アレルギー講習会 2023年3月18日-19日 (大阪国際会議場)

- ・寺田 哲也, 菊岡 祐介, 他 実習「アレルゲン免疫療法(皮下・舌下)」
- ・福永 淳, 他 実習「実践皮膚テスト:プリック・スクラッチテスト、パッチテスト」

第72回日本アレルギー学会 2023年10月20日-22日 (東京国際フォーラム)

- ・寺田 哲也「嗅覚障害と心理社会的ストレス」
- ・福永 淳 「数あるアトピー性皮膚炎治療薬の IC をどう行う? -サイバインコ®使用時の IC を含めて-
- ・福永 淳 「HAE の新たな治療目標-患者にとって Near normal life とは何か 診断後にどう実現するか」

第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 2023年12月8日-10日 (グランドニッコー東京ベイ 舞浜)

- ・福永 淳 「ヒスタミン H1 受容体拮抗薬治療抵抗性慢性特発性蕁麻疹患者におけるビラスチンへの切り替え治療の有効性および安全性に関する多施設共同オープンラベルランダム化並行群間比較試験 (H1-SWITCH 試験)」

40th Congress of the International Society of Inflammation and Allergy of the Nose (ISIAN) and 22nd Congress of the International Rhinologic Society (IRS) 2023 年1月22 日(ブルガリア)

- ・寺田 哲也, 菊岡 祐介, 他「Allergen immunotherapy for allergic rhinitis in Japan: How we became an advanced country on AIT: Development of new AIT Intralymphatic pollen-specific immunotherapy: clinical efficacy and effects on the induction of pollen- specific antibody.」

研究発表 報告（2023 年）

第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2023年5月17日-20日（福岡国際会議場）

- ・寺田 哲也「鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎—早期治療介入の重要性—鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する抗体薬を用いた治療介入の意義」
- ・寺田 哲也, 菊岡 祐介, 他「好酸球性副鼻腔炎に対するデュピルマブの臨床的効果の検討」
- ・菊岡 祐介, 寺田 哲也, 他「患者満足度調査から考える好酸球性副鼻腔炎に対する抗体薬治療」

第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 2023年4月13日-15日（和歌山城ホール）

- ・寺田 哲也, 菊岡 祐介, 他「好酸球性副鼻腔炎に対するデュピルマブの嗅覚改善効果不良例に関する検討」
- ・菊岡 祐介, 寺田 哲也, 他「投与において末梢血中好酸球増多を示した好酸球性副鼻腔炎 4 症例の検討」

第 4 回日本喘息学会 2023年7月22日-23日（ステーションコンファレンス東京）

- ・寺田 哲也「鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の病態から紐解く Best Choice とは？」

第 122 回日本皮膚科学会総会 2023年6月1日-4日（パシフィコ横浜）

- ・福永 淳 「トレンドになりつつある病態からの蕁麻疹の捉え方 —アレルギーと自己免疫の両面から—」
- ・福永 淳 教育講演「遺伝性血管性浮腫(HAE)の病態と最新の治療 基本からのアップデート」
- ・金田 一真, 他「他疾患に対して投与したウパダシチニブが著効を示した重症円形脱毛症の 2 例」

第 27 回北摂四医師会医学総会

- ・福永 淳 「大阪医科薬科大学アレルギーセンター活動と難治性皮膚アレルギー疾患」

論文業績報告（2023 年）

邦文

1. 寺田哲也.【アレルギー性鼻炎,慢性副鼻腔炎の薬物療法-適応と効果-】鼻噴霧用ステロイド薬と経口ステロイド薬をどう使用するか?. ENTONI286 号 Page9-13
2. 福永 淳.【蕁麻疹 update-血管性浮腫も含めて】汗とアレルギー(蕁麻疹と血管性浮腫). アレルギーの臨床. 43 巻 12 号 Page922-926
3. 福永 淳.【目・鼻周りの皮膚疾患を上手に治療する】眼瞼浮腫を呈したら 血管性浮腫を中心に. Derma. 339 号 Page1-7
4. 福永 淳. 話題のくすり ラナデルマブ. 日本病院薬剤師会雑誌. 59 巻 9 号 Page985-990
5. 福永 淳.【病態生理と症例から学ぶ 薬物療法・治療ガイド 実地医家必須の 54 疾患】第 VI 章 アレルギー疾患 蕁麻疹. Medical Practice. 40 巻臨増 Page240-245
6. 福永 淳. 日本と海外の蕁麻疹ガイドラインの違いについて. 皮膚科. 3 巻 2 号 Page225-233
7. 福永 淳. 遺伝性血管性浮腫の治療目標達成に向けた長期予防と臨床マネジメントのポイント. 新薬と臨床. 72 巻 1 号 Page3-15
8. 金田 一真. 新・皮膚科セミナーウム 臨床光皮膚科学を基本から理解しよう 光線過敏症診断のための検査法(解説). 日本皮膚科学会雑誌. 133 巻 (10):2325-2336

英文

1. Fukunaga A, Oda Y, Imamura S, et al. Cholinergic Urticaria: Subtype Classification and Clinical Approach. Am J Clin Dermatol. 2023;24(1):41-54.
2. Hide M, Fukunaga A, Suzuki T, et al. Real-world safety and effectiveness of omalizumab in Japanese patients with chronic spontaneous urticaria: A post-marketing surveillance study. Allergol Int. 2023;72(2):286-296.
3. Yamamoto B, Honda D, Ohsawa I, Iwamoto K, Horiuchi T, Fukunaga A, et al. Burden of illness seen in hereditary angioedema in Japanese patients: Results from a patient reported outcome survey. Intractable Rare Dis Res 2023;12(1):35-44.

4. Emek Kocatürk, **Fukunaga A**, et al. Urticaria Exacerbations and Adverse Reactions in Patients with Chronic Urticaria Receiving COVID-19 Vaccination: Results of the UCARE COVAC-CU Study. J Allergy Clin Immunol. 2023;152(5):1095-1106.
5. ChinukiY, Kohno K, Hide M, Hanaoka K, Okabe T, **Fukunaga A**, et al. Efficacy and safety of omalizumab in adult patients with wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis: Reduction of in vitro basophil activation and allergic reaction to wheat. Allergol Int. 202;72(3):444-450.

受賞報告（2023 年）

第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 最優秀論文賞 皮膚科 福永淳

第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 最優秀論文賞

（2022 年度 Journal of Cutaneous Immunology and Allergy 最優秀論文賞）

Physician awareness and understanding of hereditary angioedema: A web-based study in Japan

Atsushi Fukunaga, Miwa Kishimoto, Akinori Oh , Takeshi Akiyama , Ippei Kotera , Yoichi Inoue , Junichi Maehara

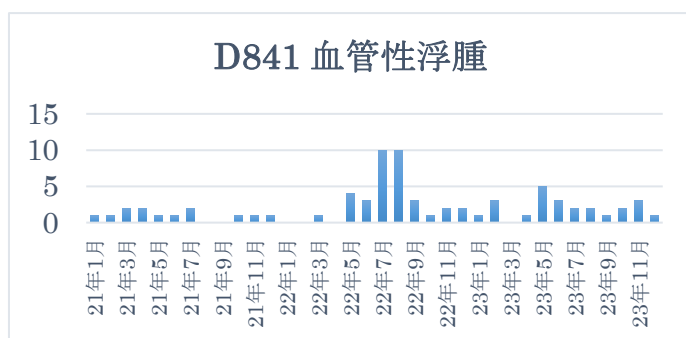


大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

国際認証に関して（皮膚科）

本院皮膚科が UCARE (国際蕁麻疹診療センター)・ACARE (国際血管性浮腫診療センター) の施設としての認証を受けました。本邦における認定施設は、UCARE が 6 番目、ACARE が 3 番目となります。施設としての UCARE、ACARE の認証を受けて、下記のように蕁麻疹と血管性浮腫の患者数が増加しています。

アレルギーセンターも、皮膚科とともに蕁麻疹・血管性浮腫・アナフィラキシーの診療、研究に尽力していきます。



蕁麻疹診療ガイドライン第 4 版作成委員会の委員長、血管性浮腫の1つの病型である遺伝性血管性浮腫の領域では一般社団法人 DISCOVERY (遺伝性血管性浮腫コンソーシアム) ワーキンググループリーダーとしてアレルギーセンター 副センター長の福永 淳が活動しています。



一般社団法人
遺伝性血管性浮腫 (HAE) 診断コンソーシアム
Diagnostic Consortium to Advance the Ecosystem for Hereditary Angioedema

ワーキンググループ	佐々木 善浩 (国立病院機構災害医療センター 消化器内科 医長)
リーダー	高村 さおり (埼玉医科大学総合医療センター 皮膚科 講師)
	田中 曉生 (広島大学病院皮膚科 教授)
	田中 彰 (日本歯科大学 新潟生命歯学部 口腔外科学講座 教授)
	野本 優二 (新潟市民病院 緩和ケア内科 科部長)
	秀 道広 (広島市立広島市民病院 病院長)
	廣瀬 哲也 (大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 助教)
	福永 淳 (大阪医科薬科大学 医学部 感覚器機能形態医学講座 皮膚科学 准教授 / 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター 副センター長)
	堀内 孝彦 (福岡市民病院 病院長)
	本田 大介 (千葉大学大学院医学研究院 腎臓内科学 助教)
	薬師寺 泰匡 (薬師寺慈恵会 薬師寺慈恵病院 院長)

メディア活動報告（2023 年）

書籍

『Jmedmook89』 あなたも名医！ひとりでもできるアレルギー診療 Total allergist 的診療の手引き

日本医事新報社 2023 年 12 月 25 日発行（アレルギーセンター員 監修）



新聞

「2023 年 2 月 23 日 読売新聞 夕刊」に、福永 淳 副センター長の記事が掲載されました。

「テーマ:大人の食物アレルギー」

Web 媒体

「東洋経済オンライン」に、寺田 哲也 センター長が掲載されました。

・2023 年 2 月 17 日 東洋経済オンライン <https://toyokeizai.net/articles/-/653129>

寺田 哲也 :患者数 100 万～200 万人「副鼻腔炎」はどんな病気か



医療情報専門サイト M3.com 内の「論文 Snapshot」に、菊岡 祐介先生のコラムが掲載されました。

・2023 年 2 月 8 日 「デュピルマブはアレルギー性鼻炎の症状改善に有効か」

・2023 年 2 月 20 日 「妊娠性鼻炎、病因の一端を解明か」

・2023 年 3 月 6 日 「性的オーガズムで鼻閉症状が改善？」

・2023 年 7 月 17 日 「アレルギー性鼻炎に小青竜湯は有効か？」

・2023 年 12 月 7 日 「鼻科手術における咽頭パッキングの効果は？」

大阪医科薬科大学病院 MIZUKI

第50号(2023年 1 月) アレルギーセンター始動後1年間の成果報告として TOPICS が掲載されました。



書籍案内

jmedmook89 日本医事新報社

あなたも名医！ひとりでできるアレルギー診療 Total allergist 的診療の手引き

定価：3,850 円(本体 3,500 円+税)

- 第1章 アレルギーを総合的に診るための基礎知識
- 第2章 ジェネラリストが知っておくべき各疾患の診断と治療
- 第3章 小児アレルギーの特色と問題点
- 第4章 症状から考えるアレルギー診療
- 第5章 様々な視点に基づく患者啓発
- 第6章 ジェネラリストに紐解くガイドラインの読み方



アレルギーを必ずしも専門としないプライマリ・ケア医が、Total allergist 的診療を行うための手引きとして、本書は企画されました。アレルギー疾患は、複数の臓器にわたり病変を併せ持つことが多く、また患者の年齢層も幅広いため、複数の診療科がそれぞれの分野における診断と治療を行い、やや縦割りの医療を提供していたとも言えます。全身のアレルギー疾患を総合的に診断・治療できる医師は Total allergist と呼ばれ、アレルギー診療を行う医師の理想形のひとつだと思われます。本書の目的である Total allergist 的診療とは、アレルギーを発現している臓器を含めた全身のアレルギー疾患を俯瞰し、適切な検査とその後の適切な専門医への紹介ができるアレルギー領域のプライマリ・ケア的診療と考えられ、このような診療が結果として Total allergist の育成につながると考えています。本書では医師のみならず、薬剤師、看護師、栄養士、検査技師の方にも執筆して頂いており、文字通りの多職種連携の結果、本書が完成いたしました。今回、各専門分野のエキスパートの先生に執筆をお願いしましたが、その専門分野に深入りしすぎず、Total allergist 的診療としてプライマリ・ケア医が理解するべき項目にフォーカスして、簡潔に記して頂きました。多忙な診療の中、幾多の加筆修正のお願いにも応えて下さり、執筆にお時間をとって頂いた各先生方にこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。本書を通読して頂くことで、アレルギー疾患全体の理解が進むものと思います。また日常診療で困ったときに、該当項目を紐解いて頂く手引きの利用もよいと思います。しかし本書がアレルギーという広大な分野のすべてを網羅しているとは言えません。さらに理解を深めるためには、それぞれの分野の専門書を読み、いっそう知識を深めて頂きたいと思います。プライマリ・ケア医がアレルギーを総合的に診療するために、本書がお役に立つことができれば幸甚です。

2023 年 11 月

大阪医科薬科大学アレルギーセンターセンター長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授 寺田哲也

アレルギーセンターの活動指標について

2024年1月22日 医事課算出

『大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンターの成果』

2022年と2023年のデータ比較から（2021年追加版）

大阪医科薬科大学病院
Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital

アレルギー総合診の患者数

総合診療の定義：水曜日において5診療科（耳鼻咽喉科・呼吸器内科・皮膚科・眼科・小児科）を受診した患者のうち、複数診療科を受診した患者



患者数 459人増 全体割合 1.8%上昇

アレルギー関連診断数の推移（好酸球性副鼻腔炎）



好酸球性副鼻腔炎

患者数 20人増 全体割合 57.1%上昇

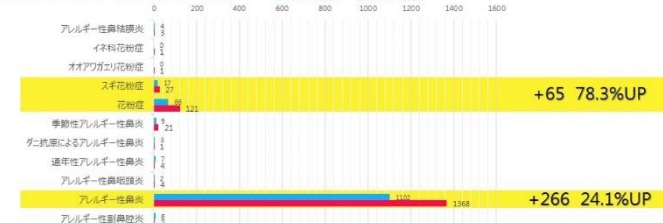
Agenda

- アレルギー総合診の患者数
- アレルギー関連診断数
- 検査件数 IgE検査/View39
- 指導料件数 外来診療単価 入院診療単価

アレルギー関連診断数の推移（花粉症・アレルギー性鼻炎）

代表ICD-10コード	代表日本語病名	2021年集計	2022年集計	2023年集計	差分	割合
J301~J304	花粉症・アレルギー性鼻炎	1324	1251	1698	447	35.7%
0000J301	アレルギー性鼻結膜炎	2	4	3	-1	75.0%
	イネ科花粉症	0	0	1	1	-
	オオアワガエリ花粉症	0	0	1	1	-
	スギ花粉症	19	17	27	10	158.8%
	花粉症	99	66	121	55	183.3%
0000J302	季節性アレルギー性鼻炎	19	9	21	12	233.3%
0000J303	ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎	3	3	1	-2	33.3%
	通年性アレルギー性鼻炎	17	7	4	-3	57.1%
0000J304	アレルギー性鼻咽喉炎	4	2	4	2	200.0%
	アレルギー性鼻炎	1178	1102	1368	266	124.1%
	アレルギー性副鼻腔炎	2	6	2	-4	33.3%

花粉症・アレルギー性鼻炎診断数比較



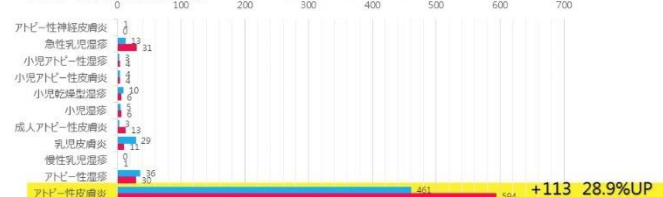
花粉症・アレルギー性鼻炎

患者数 447人増 全体割合35.7%上昇

アレルギー関連診断数の推移（アトピー性皮膚炎）

代表ICD-10コード	代表日本語病名	2021年集計	2022年集計	2023年集計	差分	割合
L208~L209	アトピー性皮膚炎	565	565	700	135	123.9%
0000L208	アトピー性神経皮膚炎	0	1	0	-1	0.0%
	急性乳児湿疹	4	13	31	18	238.5%
	小児アトピー性湿疹	2	3	4	1	133.3%
	小児アトピー性皮膚炎	11	4	4	0	100.0%
	小児乾燥型湿疹	7	10	6	-4	60.0%
	小児湿疹	9	5	6	1	120.0%
	成人アトピー性皮膚炎	2	3	13	10	433.3%
	乳児皮膚炎	20	29	11	-18	37.9%
	慢性乳児湿疹	0	0	1	1	-
0000L209	アトピー性湿疹	21	36	30	-6	83.3%
	アトピー性皮膚炎	489	461	594	133	128.9%

アトピー性皮膚炎診断数比較



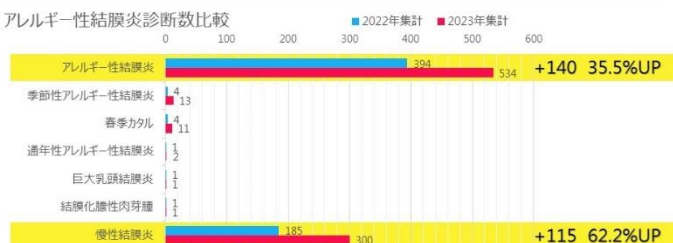
アトピー性皮膚炎

患者数 135人増 全体割合 23.9%上昇

アレルギー関連診断数の推移（アレルギー性結膜炎）+157 39.0%↑

代表 ICD-10コード	代表日本語病名	2021年集計	2022年集計	2023年集計	差分	割合
0000H101	アレルギー性結膜炎 合計	523	403	560	157	139.0%
	アレルギー性結膜炎	508	394	534	140	135.5%
	季節性アレルギー性結膜炎	2	4	13	9	325.0%
	春季カタル	12	4	11	7	275.0%
	通年性アレルギー性結膜炎	1	1	2	1	200.0%
0000H104	巨大乳頭結膜炎	53	187	302	115	161.5%
	結膜化膿性肉芽腫	2	1	1	0	100.0%
	慢性結膜炎	1	1	1	0	100.0%
	慢性結膜炎	50	185	300	115	162.2%

アレルギー性結膜炎診断数比較



アレルギー性結膜炎

患者数 157人増 全体割合39.0%上昇

アレルギー関連検査の推移（2022年と2023年比較）

回数 特異的IgE View39 検査が大幅に増加

内部コード	表示名称	2021年	2022年	2023年	差分 (2023-2022)	割合
6462(変)	特異的IgE半定量・定量	2661	2923	2400	-523	82.1%
8201	小児食物アレルギー負荷検査	18	22	17	-5	77.3%
68371(変)	特異IgE(MAST36)	283	208	90	-118	43.3%
76946(変)	特異IgE(View39)	0	60	599	539	998.3%
83467	非特異的IgE定量	1544	1746	1789	43	102.5%
総計		4506	4960	4899	-61	98.8%

請求金額 特異的IgE View39 件数増加に伴い請求金額も+297万円増加

内部コード	表示名称	2021年	2022年	2023年	差分 (2023-2022)	割合
6462(変)	特異的IgE半定量・定量	14,420,380	14,956,630	10,458,500	-4,498,130	69.9%
8201	小児食物アレルギー負荷検査	250,000	304,000	205,000	-99,000	67.4%
68371(変)	特異IgE(MAST36)	1,473,320	993,300	435,540	-557,760	43.8%
76946(変)	特異IgE(View39)	0	420,920	3,392,660	2,971,740	806.0%
83467	非特異的IgE定量	140,000	195,500	122,300	-73,200	62.6%
総計		16,283,700	16,871,350	14,618,000	-2,253,350	86.6%

View39 検査が大幅に増加し、請求額も増加

アレルギー関連診断数の推移（大きな変動の無かった診断）

代表 ICD-10コード	代表日本語病名	2021年集計	2022年集計	2023年集計	差分	割合
0000J450	気管支喘息 合計	40	27	29	2	107.4%
	アトピー性喘息	5	3	2	-1	66.7%
	アレルギー性気管支炎	0	2	11	9	550.0%
	外因性喘息	0	0	1	1	-
	小児喘息	22	16	6	-10	37.5%
	小児喘息性気管支炎	13	6	9	3	150.0%

代表 ICD-10コード	代表日本語病名	2021年集計	2022年集計	2023年集計	差分	割合
0000T781	食物アレルギー 合計	459	914	887	-27	97.0%
	アーモンドアレルギー	0	1	0	-1	0.0%
	エビアレルギー	0	0	3	3	-
	キウイアレルギー	0	0	1	1	-
	ピーナッツアレルギー	1	1	1	0	100.0%
	花粉食物アレルギー症候群	1	7	6	-1	85.7%
	牛乳アレルギー	0	2	3	1	150.0%
	口腔アレルギー症候群	1	0	3	3	-
	小麦アレルギー	1	1	4	3	400.0%
	食物アレルギー	453	896	861	-35	96.1%
	食物アレルギーが関与するアトピー性皮膚炎	0	1	2	1	200.0%
	卵アレルギー	5	5	3	-2	60.0%

アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料（2022年と2023年比較）

※アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料は2022年4月に新設の為、2021年実績は無し

内部コード	表示名称	2022年合計	2023年合計	差分	割合
532	アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料（1月目）	448,000	840,000	392,000	187.5%
556	アレルギー性鼻炎免疫療法治療管理料（2月目以降）	172,500	727,500	555,000	421.7%
総計		620,500	1,567,500	947,000	252.6%

請求金額は
2.5倍に
+947,000円

アレルギー性鼻炎管理指導料 月別請求点数推移



免疫療法治療管理料の請求金額は 2.5 倍に増加

アレルギーセンター活動の目的は

- 地域におけるアレルギー診療への貢献
- 病院収益への貢献
- チーム医療体制の構築

上記の目的達成にむけて、少しずつですが、確実に成果が出ています

Photos



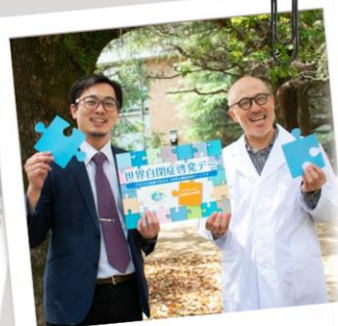
PHOTO
ALBUM



Photos



PHOTO
ALBUM



大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

「Annual Report 2023」

2024 年 3 月 31 日発行

発行人 寺田 哲也

編集人 菊岡 祐介

編集 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

発行 大阪医科薬科大学病院 アレルギーセンター

大阪府高槻市大学町 2-7 Tel : 072-683-1221